

皮膚血管肉腫（ひふけっかんにくしゅ）

皮膚血管肉腫について

血管肉腫は、血管やリンパ管の内側を覆う「血管内皮細胞」から発生する悪性腫瘍（がん）です。非常にまれな病気で、推定される罹患率は人口100万人あたり約2.5人程度とされています。

血管肉腫は、特に高齢者の頭や顔、首といった頭頸部に発生しやすい傾向があります。明確な原因は不明ですが、紫外線や外傷、リンパ浮腫（特に乳がん治療後）、放射線照射の既往などとの関連が示唆されています。

症状について

血管肉腫は、最初は皮膚の赤み（紅斑）や青あざ（紫斑）のように見えることが多く、次第に腫瘤が盛り上がり、出血しやすくなる場合があります。進行すると、肺やリンパ節、その他の内臓に転移することがあります。特に肺に転移すると、腫瘍からの出血によって「血気胸」と呼ばれる重篤な状態を引き起こし、急激な経過で命に関わることもあります。

診断について

診断には、皮膚の一部を採取する生検が必要です。病理組織検査でがん細胞の有無を確認し、必要に応じて免疫染色という特殊な検査を追加します。また、がんが他の臓器に広がっているかどうかを調べるために、CTやPET-CTなどの画像検査も行います。

治療について

治療は、腫瘍の大きさや進行度に応じて異なります。腫瘍が5cm以下と小さく、転移がない場合には、外科手術で切除することがあります。しかし、日本では初診時点で腫瘍が5cmを超えているケースが多く、手術が難しいことも少なくありません。

このため、抗がん剤のパクリタキセルを使用した化学療法と放射線療法を組み合わせ、化学放射線療法を行うことが一般的です。

ほかに、パゾパニブやエリブリンといった薬剤も使用されることがありますが、これらは主に軟部肉腫全体に対する治療データに基づいており、血管肉腫への効果はまだ十分に確立されていません。

また最近では、がん遺伝子パネル検査を用いて個別化治療を行うこともあります。

執筆者

- 氏名： 森 章一郎（もり しょういちろう）
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 皮膚科

- 氏名： 奥村 真央（おくむら まお）
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 皮膚科